

がん検診

診療所長 野坂 和男

平成19年、国は「がん対策推進基本計画」を策定し、75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の20%減少を10年以内に達成することを目標としました。がんの早期発見のためにがん検診受診率を5年以内に50%以上に高めることを計画しました。ところが5年目にあたる平成23年までに残念ながら、この目標には遠く及びません(図1)。本年6月にこの計画が見直され、さらに5年以内(平成28年)にがん検診受診率を対象者の50%以上にまで高めようと計画しております。これを機会にがん検診の重要性について考えてみましょう。そして健保が取り組んでいるがん検診についてご紹介します。

図2に主な部位別がん死亡率の推移をお示します。男性では肺、胃、大腸さらに高齢化社会を反映して前立腺がんが急増しております。女性では同じく肺、胃、大腸に加えて乳がん、子宮がんの増加が目立ちます。国は40歳以上の方(子宮頸がんは20歳以上)を対象に対策型検診(集団に実施して死亡率減少効果が明らかな検診)として表1にあげる検査を推奨しています。皆さんはこれらの検診を毎年お受けになっておられますか? 以下に主たるがんの特徴と早期発見の重要性についてご紹介します。

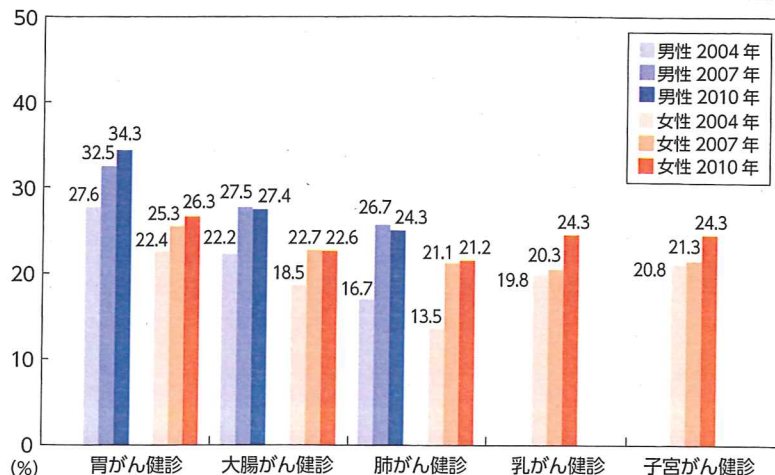
(表1) 科学的根拠のあるがん検診

対象臓器	効果のある検診方法
胃	胃X線
子宮頸部	細胞診
乳房	視触診とマンモグラフィ(乳房X線の併用)
肺	胸部X線と喀痰細胞診(喫煙者のみ)の併用
大腸	便潜血検査、大腸内視鏡



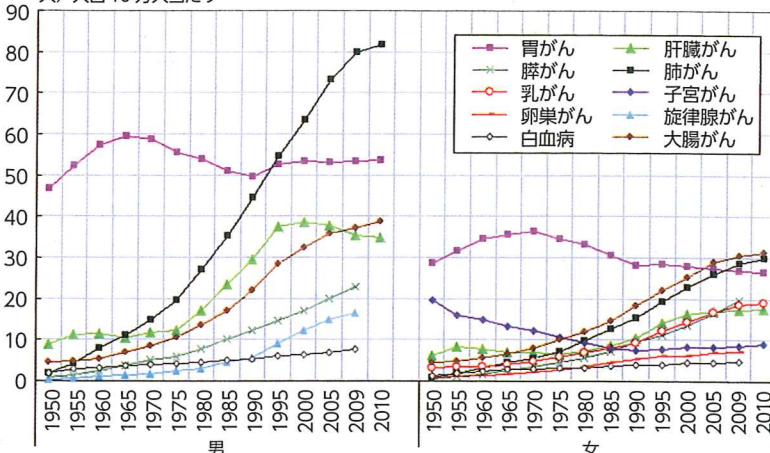
(図1) 男女別がん検診受診率の推移

※国民生活基礎調査より国立がん研究センターがん対策情報センターにて作成。いずれも過去1年の受診有無。



(図2) 主な部位別がん死亡率の推移

人/人口10万人当たり



(注) 肺がんは気管、気管支のがんを、子宮がんは子宮頸がんを含む。大腸がんは結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸のがんの計。最新年は年計(概数)

(資料) 厚生労働省「人口動態統計」

① 胃がん

委託医療機関における胃X線検査、胃カメラ検査の他に、健保会館で健診を受けられる35歳以上の方には血液検査にペプシノーゲンとピロリ菌抗体検査を追加して、がんのリスクが高い方に胃カメラ検査を実施しております(図3)。

(図3) ABC検診の4つの群

ABC検診とは、血液でピロリ菌感染の有無(血清ピロリ菌IgG抗体)と胃粘膜萎縮の程度(血清ペプシノーゲン値)を測定し、被験者が胃がんになりやすい状態かどうかをA~Dの4段階で判定する検診法

危険率が高まる

萎縮がすすむ

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	-	+	+	-
ペプシノーゲン値	-	-	+	+
胃粘膜の状態	正常 	軽度萎縮 	中等度萎縮 	高度萎縮
胃がん発生率	年率0%	年率0.1%	年率0.2%	年率1.25%
13,033 *	10,147 (78%)	1,594 (12%)	1,103 (9%)	189 (1%)

*東京都某職域ABC検診受診者数(比率)(2010年度)

2 大腸がん

図4は便潜血検査が大腸がんの早期発見に有効であることを示したものです。症状がないうちに発見することが、根治的な治療になるのです。大腸がんの90%は治癒します。



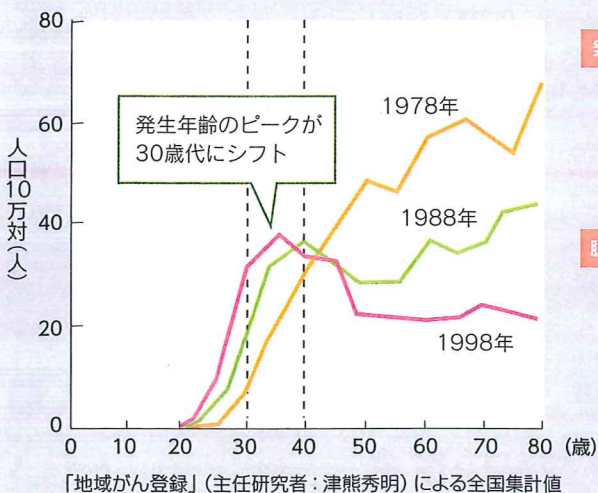
(図4) 女子医大第2病院外科における検診発見大腸癌の特徴(2005年)から抜粋

	検診群	有症状群
背景		
年齢	61.8 歳	58.9 歳
性別 (男 / 女)	70/26	404/324
腫瘍径	27.7mm	51.5mm
深達度(筋層までにとどまるもの)	58.3%	14.7%
治療		
手術	64.6%	88.2%
内視鏡治療	34.4%	7.6%
抗癌剤	0.0%	1.8%
根治度		
根治度 A/B	95.2%	79.0%
根治度 C	3.2%	18.7%
5 年生存率	91.9%	56.4%
術後入院期間	18.5 日	26.6 日
下線：有意差あり		

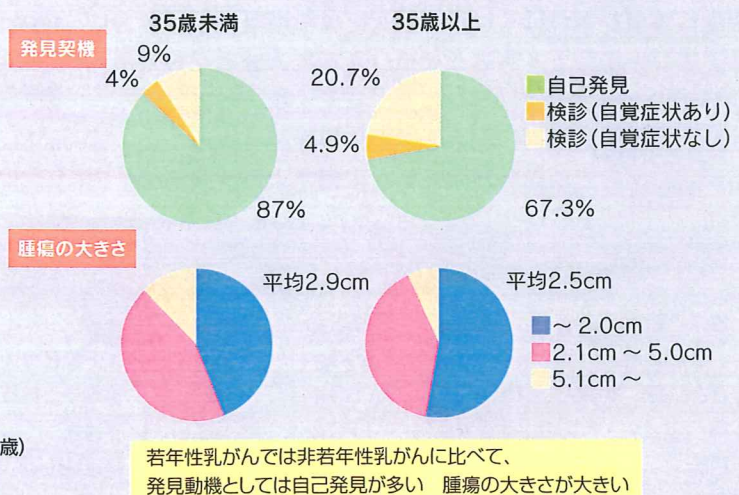
3 子宮がん・乳がん

若年女性の子宮頸がんが増加しています(図5)。乳がんは自己診断が可能な唯一のがんです(図6)。当健保では30歳以上の女性に婦人科検診(子宮・乳房)を助成しております。

(図5) 子宮頸癌発生年齢による変化



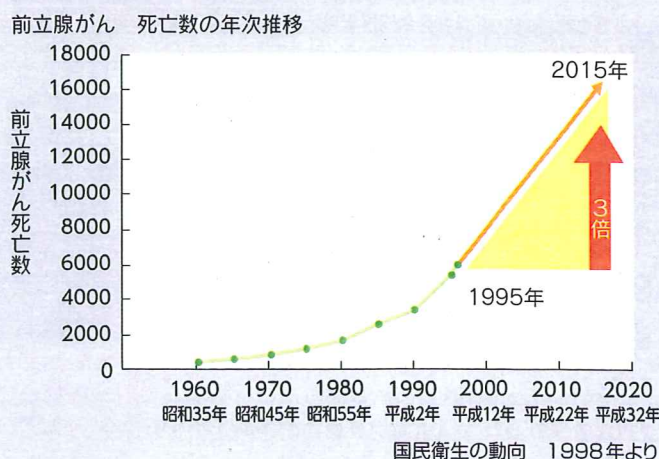
(図6) 乳癌の発見



4 前立腺がん

高齢化社会となり、前立腺がんは今後ますます増えていくことが予想されます(図7)。PSA(前立腺特異抗原)検査の有用性については未だに議論があるところですが、欧州で行われた大規模試験で、PSA検診で発見された前立腺がんの進行度が低いとの結果がでております(図8)。健保会館で実施している健診で50歳以上男性の希望者にPSAを測定しております。

(図7) 前立腺癌の死亡数年次推移と予測



(図8) 欧州前立腺癌ランダム化比較試験(ERSPC) N Engl J Med 2009

	PSA 検診群	対照群
前立腺癌	72,952 人	89,435 人
癌死	5,990 人 (8.2%)	4,307 人 (4.8%)
	214 人 (0.29%)	326 人 (0.36%)

以上、駆け足でしたが、がんの早期発見の重要性と健保の取り組みを紹介してまいりました。被保険者の皆様も年に一回の健康診断を必ずお受けになり、安心して日々快適にお過ごしください。

